

SEINAN CHANTEURS



2002

平成14年度福岡市民芸術祭参加



《創立48周年》

第25回西南シャントゥール定期演奏会

SEINAN CHANTEURS ANNUAL CONCERT 2002

賛助出演：女声合唱団 コール・エスボワール

2002年11月30日(土) 午後4:30開演
アクロス福岡シンフォニーホール

主催 / 西南シャントゥール 共催 / 西南学院大学同窓会・西南学院グリークラブOB会
後援 / (財)福岡市文化芸術振興財団・福岡市・福岡市教育委員会・福岡県合唱連盟・朝日新聞社



「2001・第24回定期演奏会」より



西南シャントゥール
会長／徳永麟之助

本日はご来場頂き誠に有難うございます。

今年も多くの皆様方のご支援を得て、定期演奏会を開催する運びとなりました。重ねてお礼申し上げます。

又、今年も国内外共に大きな事件や問題を抱えた年となりました。特に国内におきましては、依然として続く景気の低迷が社会全体に閉塞感を与え、企業の度重なる不祥事や犯罪の多発など誠に憂慮すべき状況と言わざるを得ません。このような社会情勢下にあっては益々、文化や芸術の活動が重要な役割を持っていると思われます。

本日ご来場下さいました音楽を愛される皆様方と共に、合唱音楽を通じて共感しあえますことを、無常の喜びと幸せに感じております。

さて、今宵は客演指揮者に松岡 究氏を迎え、高田三郎の「水のいのち」を最後のステージで演奏致しますが、この曲は毎年他の合唱団でも唱われる程人気のある名曲です。よく演奏される女声合唱や混声合唱とは又ひと味違った、男声合唱の「水のいのち」をお届け出来ればと思っております。

そして今回は、「女声合唱団 コール・エスボワール」の助演をもいただきましたことになりました。終戦後間もなく、当時西南学院大学教授(音楽担当)の森川和子先生が音楽文化の先駆けとして女声合唱団を組織し、その育成に努めておられました。その後教育大学教授の森脇憲三先生が心根をこめてその育成にあたり福岡の音楽文化史に残る優秀な女声合唱団になり、今年の「全日本お母さんコーラス全国大会」では優秀団体に与えられる“ひまわり賞”を尾籠一夫先生の指揮で授与されました。此の様に多様なプログラムで本日は素晴らしい合唱をお楽しみいただき、ご批評をいただけると思います。

最後になりましたが、本年も本演奏会を催すに当り、各界団体のご協力をいただきました。心より感謝申し上げます。



女声合唱団
コレ・エスボワール
指揮者／古川みゆき

西南シャントゥールの皆様、第25回定期演奏会おめでとうございます。そして、今宵のステージのゲストとして、コレ・エスボワールをお招きくださいまして、ありがとうございます。

実を申しますと、シャントゥールが結成されたのは、私が生まれた年のことで、それからの長い(!)年月、熱く輝かしく歌い継いでこられたことは大変素晴らしいことだと思います。

私もほんの短い間ではありましたが、西南学院大学の非常勤講師を勤めさせていただいたことがあります。父もそうですし、夫は中学校の卒業生、妹は大学の卒業生と、いつも“西南”に囲まれ過ごしてきた者として、この晴れのステージに立つことができて感激もひとしおです。

コレ・エスボワールも昨年30周年を迎えることができました。こんなに長く歌い続けてこられたのも、ずっと先に立ち、歌う姿を見てくださっていた先輩合唱団のお陰だと感謝しています。

これからますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。



[I 部]

I. 男声合唱組曲『尾崎喜八の詩から』

作詩/尾崎喜八 作曲/多田武彦
指揮/徳永和彦

- 冬野
- 最後の雪に
- 春愁
- 天井沢
- 牧場
- かけす

II. 《賛助出演》「女声合唱団 コール・エスパワール」

指揮/古川みゆき
ピアノ/巣山千恵
作曲/大中 恩

女声合唱曲集『もう一つ心を』

- もう一つ心を 作詩/岸田衿子
- かなしみについて 作詩/谷川俊太郎
- しぐれに寄する抒情 作詩/佐藤春夫
- 海 作詩/金井 直
- 幌馬車 作詩/西条八十
- しずかに 作詩/土田 藍

女声合唱とピアノのための組曲『葡萄の歌』より

作曲/湯山 昭
● 葡萄の歌 作詩/関根栄一

—— 休憩 (15分) ——



[II 部]

III. 『黒人靈歌』 Afro-American Spirituals

指揮/徳永和彦

- De Animals A-Comin' Marshall Bartholomew
- Deep River H. T. Burleigh
- Didn't My Lord Deliver Daniel Fenno Heath
- Hush! Somebody's Callin' My Name Brazeal W. Dennard
- My Lord, What A Mornin' H. T. Burleigh R. Vene
- Ride The Chariot Wm. Henry Smith

—— 小休止 ——

IV. 男声合唱組曲『水のいのち』

作詩/高野喜久雄 作曲/高田三郎

客演指揮/松岡 究
ピアノ/瀬川啓子

- 雨
- 水たまり
- 川
- 海
- 海よ

毛崎喜八の詩から

一、
冬
野

I. 男声合唱組曲『尾崎喜八の詩から』

多田武彦、1973年（昭和48年）の作曲。

西南シャントゥールでは1992年の定期演奏会にも歌いました。あれから十年、団員の多くが、それぞれの人生を振り返りながら、尾崎喜八の詩への共感を一層深めて歌える歳を重ねて來たのではないでしようか。

若い世代に愛唱されている多田武彦の作品の中でも、これは珍しく骨太の「大人の味」を持つ組曲です。それは多田武彦の感性と共に、清廉な抒情を詠んだ尾崎喜八の詩の力によるものだと思います。

作品を通して尾崎喜八の「自然」と氏のロマンチズムが表現出来ればと思います。

(記：田中義信)

III. 『黑人靈歌』 Afro-American Spirituals

- ① 「動物たちがやって来る」 …動物たちがゾロゾロとやって来る。ノアの方舟に乗ろうと牛や象やカンガルー、熊に河馬に豚、猿、蜂までも。ハレルヤ、主を讃えよう。

② 「深い河」 …深い河よ、私の家はヨルダン川の向こう側。
主よ、川を越えて集会地（天国）へ行かせて下さい。あの福音と平安の地へ。

③ 「主はダニエルをお救いに」 …主はダニエルを獅子の巣穴から、ヨナを鯨の腹から、ヘブライの子供を燃える炉からお救いになった。だから、主が私たちをお救いにならない筈はない。

④ 「シーッ、誰かが私の名を」 …シーッ、誰かが私の名を呼んでいる。主よ、私はどうしたら良いのでしょう。悩みも続かず信仰が喜びなのに、ある朝、死が部屋に忍び込み、誰かが私の名を呼んでいる。主よ、おお主よ、私はどうしたら…。

⑤ 「主よ、何という朝でしょう」 …主よ、星が沈み始めると何と美しい朝になるのでしょうか。私をもう少しこの世に居させて下さい。何という朝に、星が沈み始めると。

⑥ 「馬車に乗って」 …主よ、朝には馬車に乗って、最後の審判の為に出かける用意をしています。兄弟よ、姉妹よ、そしてあなたも用意は出来ましたか。
主に会う為に、私は馬車で出かける用意をしています。

(記：田中義信)

二、最後の雪に

いま 野には
大きな豎琴のような夕暮が懸かる。
厳肅に切られた畠から畠へ霜がむすび、
風の長い琶音がはしり、
最初の白い星がひとつ
もつとも高い鍵を打つ。
冬は古代のようにひろびろと枯れ、
春はまだ遙かだが
予感はすでに天地の間にゆらめいている。

最初の白い星がひとつ
もつとも高い鍵を打つ。
冬は古代のようにひろびろと枯れ、
春はまだ遙かだが
予感はすでに天地の間にゆらめいている。
わたしはこの暮れゆく晩い土をふんで
わたしの手から種子を播く、
夕日のようにみなぎつて
信頼のために重い種子を。
それは沈む、
深く仕えるもののように、
地底の夜々を変貌して

冬のおわりの花びらの雪、
お前たち 高雅な憂鬱な老嬢たちの
やがて遠い地平から輝く春が
微風と雲雀とのその前駆を送るとき、
古い詩稿に私は愛を感じるだろう、
雪よ、野に敷に、畠に路に、
そして私の窓の前、
お前たちの踊る典雅なウインナ・ワル
その高貴さを私の詩に加えてくれ。
高雅な、憂鬱な老嬢たちが
朝から白いワルツを踊っている。
その窓に近い机にむかって
私の書く光明の詩、
早春の夕がた、透明な運河の
水や船や労働を織りこんだ生氣の詩。

やがて遠い地平から輝く春が
微風と雲雀とのその前駆を送るとき、
古い詩稿に私は愛を感じるだろう、
お前たち、高雅な憂鬱な老姫たちの
窓の前でのあの最後の舞踏のため、
私の内でいつも楽しい記念のため。

四、
天上沢

みすず刈る信濃の國のおおいなる夏、
山々のたたずまい、谷々の姿もとに変らず。
安曇野に雲立ちたぎり、檜穂高日は照り曇り、
砂に這う這松、岩にさえずる岩雲雀、
さてはおりおりの言葉すくなき登山者など、
ものなべて昔におなじ空のもと、
燕より西岳へのごしきほとり、
案内の若者立たせ、老人ひとり、
追憶がまぶた濡らした水にうかんで

かけすの鳥の
あんなに半ば

ときどきはちらちら光り
空気の波をおもたくわけて
もう二度と帰つて来ない者のように
かけす。という仮の名も
人間と地上の契りの夢だつたと
今はなつかしく 柔らかく
おりおりはたぶん低く啼きながら
ほのぼのと 暗み 明るみ
見る見るうちに小さくなり
深まる秋のあおくつめたい空の海に

三、春愁

—ゆくりなく八木重吉の詩碑の立つ田舎を通つて—

五、牧
場

静かに賢く老いるということは
満ちてくるいだ願わしい境地だ、
今日しも春がはじまつたという
木々の芽立ちと若草の岡のなぞえに
赤々と光りたゆたう夕日のように。

五、牧場

曲目解說

IV. 男声合唱組曲『水のいのち』

高田三郎氏は1913年生まれ。東京音楽学校（現東京芸術大学）卒業。高田三郎氏の作風は真摯で、表面を飾り立てる事もなく、むしろ人間の内面性を厳しく追求する姿勢がうかがわれます。

作品は声楽、合唱曲、オペラと多岐にわたっていますが、特に合唱組曲の「水のいのち」は混声、女声、男声と数々の名演奏がある日本の合唱曲の古典といってよく、また合唱団にとって“バイブル”といってよいと言えます。

高田三郎氏は「水のいのち」について英訳すれば“*The Life of Water*”ではなく“*The Soul of Water*”であると言っております。“Soul”すなわち「魂」とは「それがあればいきているが、失えば死んでしまうもの」なのです。そして水の「魂」とは、低い方へ流れていく性質のことではなく、反対に「水たまり」は泥水ながら「空を映そうとし」、「川」は川上の「山」に、またその上の「空にこがれるいのち」なのです。それは又私たちの「いのち」でもあり、この組曲のテーマであると記されています。

組曲「水のいのち」は、まさに日本から生まれた“宗教曲”と言えるでしょう。作詞の高野喜久雄氏とは、他にも「わたしの願い」「ひたすらな道」「内なる遠さ」等多くの佳作があります。

構成は①「雨」②「水たまり」③「川」④「海」⑤「海よ」の5編からなります。

この作品は1964年日本合唱協会、指揮・山田和男によって東京放送(TBS)から放送、初演されました。

第一曲、「雨」は終始静かに、しかしながら地上のすべてに降りそぞろ大きさを持ったものでありたいと思っている。我々は人生の途上、時に「立ちすくむ」のではないだろうか。また、我々は互いに常に許しあわねばならないのであるが、それでもなおかつ「許しあえぬもの」もあるのではないだろうか。「雨よ、その人たちの上にも降ってくれ」そして、「すべてをそのものに」という願いと共にこの曲は始められるのである。

「水たまり」は親しみ深いもの、身近なものでありたいと思う。そして、その「やがて消え失せてゆく水たまり」に私たちも似ていると言い終った時、我々は胸をつかれる思いを持つのである。そして、我々の深さが泥の深さでしかない残念さをとおして、青空をうつしている「水たまり」に気づくのである。

「川」では、最初、川に、そして次に、自らの心に問い合わせた後、太い旋律線が生き生きと流れる。ゆたかな、そして、透きとおった水をたたえた川のように。水は低い方へゆくほかはないのだろうか。いや、川は山に、空にこがれて、淵はよどみ、渦はいらだっているのである。そして、川底の石は水の流れに作用されて、上流へところがりのぼり、魚も力強く水中をさかのぼって行く。それらをみごもっている川が何かと尋ねることはもういらない。それは私たち自身なのだ、と繰り返してこの楽章は結ばれる。

「海」のピアノと共に始まるハミングの大波小波の音は、終始我々に「見なさい。これを見なさい」と言いつづけているようである。「人でさえ」から我々は切なる

*f*になる。海がそっとその「人」を岸辺にかえすと共に言う「見なさい」はどのように受けとられたらよいだろうか。母が子を叱るように、智者が若者をさとすように？いや、大海が人類全体にその浅薄さとその仕業とを詰問しているようにうたうべきなのではないだろうか。

「海よ」の第一段で最もうたわれるべき言葉は「受け容れて」であろう。それは、すべて、真にすべて受け容れる大きさでなければならない。第二段の「くりかえし」も同様であろう。それは性急さやあきっぽさとは遠く離れた、ある無限のくりかえし。海の中のさまざまな光を暗示するもの、また顯示するものを探し、遂に、暗い深海における、プランクトンの死骸の堆積によってできた真白なマリンスノーの、上に向っての立ち昇りに達するのである。深海もまた空にこがれている。そして、我々は「海よ、たえまない始まりよ」と海全体によびかけるのである。「のぼれ、のぼりゆけ」とうたう時、我々は、のぼりゆく「水のこがれ、水のいのち」につつまれるのであろうか。「たとえ己の重さに逆いきれず雲となり」で我々はまた反省させられる。

この組曲全体をとおして考える時、私は同じ詩人の「蠅燭」という詩の中の二行「焰は何故 天を指しつつ焰は何故 下へともえうつるのか」を思い出さずにはいられない。揺れる焰となって自らをもやしながら刻一刻自らの影に近づき、やがてもえつきる蠅燭のその焰が、かつて天以外を指したためしのないことを。だからこの曲の題も英訳すれば“Life of water”ではなく“Soul of water”であると思っている。(高田三郎)

(記：練習指揮／馬頭経明)

二、水たまり
わだちの くぼみ
そこの ここ
くぼみにたまる
水たまり
流れるすべも めあてもなくて
ただ
だまつて
たまるほかはない
どこにある 水たまり
やがて
消え失せてゆく
水たまり
わたしたちに肖ていて
水たまり
わたしたちの深さ
それは泥の深さ
わたしたちの言葉
それは泥の言葉
泥のちぎり
泥のうなずき
泥のまどい
だが
わたしたちにも
いのちはないか
空に向う
いのちはないか
あの水たまりの にごつた水が
空を うつそうとする
ささやかな

うつした空の
青さのよう
澄もうと苦しむ
小さなこころ
うつした空の
高さのままに
在ろうと苦しむ
小さなこころ

三、川

何故 さかのぼれないか
低い方へゆくほかはないか

よどむ淵 くるめく渦のいらだち
まこと 川は山にこがれ
きりたつ峰にこがれいのち
空の高みにこがれるいのち

山にこがれて 石をみごもり
空にこがれて 魚をみごもる
さからう石は 山の形
さかのぼる魚は 空を耐える

おお 川は何か
川は何かと問うことを止めよ

岩と混じれなくて
ひねもす
たけり狂うこともある
しかし
凡ての川はみな
そなたをさして常に流れた
底に沈むべきものは沈め
空にかえすべきものは
空にかえした
人でさえ 行けなくなれば
そなたを さしてゆく
そなたの中の 一人の母をさしてゆ
そして そなたは
時経てから 充ち足りた死を
そつと岸辺にうち上げる
みなさい
これを 見なさい と云いたげに
五、海よ

そして 深く暗い 海の底では
下から上へ
まこと 下から上へ
雪は 白い雪は 降りしきる

おお 海よ
たえまい 始まりよ
あふれるに みえて
あふれる ことはなく
あるかに みえて
終るかに 終ることもなく
そなたは 億年の むかしも
いつも 始まりだ
おお 空へ
空の高みへの 始まりなのだ

のぼれ のぼりゆけ
そなた 水のあこがれ
そなた 水のいのちよ
たとえ 己の重さに
逆いきれず
雲となり
また ふたたび降るとしても

のぼれ のぼりゆけ
みえない つばさ
いちずな つばさ あるかぎり
のぼれ のぼりゆけ
おお おお

くらげは海の月
ひとでは海の星
海蟹 海の馬 空にこがれ
あこち 見はる光を包いている

しあわせ 幸福な出会い

客演指揮 松岡 究

西南シャントゥールの馬頭さんから声がかかり、シャントゥールの皆様とのお付き合いのチャンスに恵まれました。

馬頭さんの話によると「平均年令は60才に手がとどきます」と……。

10月10日、初対面、初練習。最初こそ少々硬さがあったものの、時間が経つにつれ、この先輩方の目の色が変わり集中力が高まり、指揮者としては充実した時間を過ごす事が出来ました。

さすが伝統ある“西の雄・西南グリー”のOBの皆さん。

聞くところによれば結成以来48年目とか、よくぞここまで歌って来られたと感心致しました。まだまだ大丈夫、もっともっと欲張りになって歌い続けて下さい。

今日のこの日、ご来場いただいた皆様には“幸福な出会い”をお伝え出来るものと確信しております。

松岡 究 Matsuoka Hakaru

成城大学文芸学部卒業、音楽学を戸口幸策氏に学び、指揮を小林研一郎、声楽を山田茂の各氏に師事。1987年東京オペラ・プロデュース公演ドニゼッティ作曲「ビバ！ラ・マンマ」を指揮してデビュー。その後、文化庁平成元年度優秀舞台芸術奨励公演プッチーニ作曲「蝶々夫人」、ロッシーニ作曲「オテロ」などを指揮。ほかに「ヘンゼルとグレーテル」「婚約手形」「カルメン」「椿姫」「フィガロの結婚」「ドン・ジョヴァンニ」「魔笛」「ハムレット」(原語初演)等を指揮。いずれも高い評価を得ている。

平成3年度文化庁在外派遣研修員に選ばれ、ハンガリー国立交響楽団及び国立歌劇場に留学。1992年夏スウェーデン・アルコンスト音楽祭に参加、「卓越した才能」と高く評価された。さらにヨルマ・パヌラ教授に師事、同教授からディプロマを与えられた。帰国後、93~96年、新神戸オリエンタル劇場管弦楽団常任指揮者。またグノー「ロメオとジュリエット」、ワーグナー「恋愛禁制」、ベルリオーズ「ペアトリスとベネディクト」、トマ「ハムレット」、R.シュトラウス「無口な女」と初演に取り組み、「きわめてバランス感覚に富んだ逸材」(読売新聞)、「R.シュトラウス特有の精妙な響きを引き出した」(日経)、「熟達の指揮ぶり、自らが意図する表現に歌手を自然に導いていく」(日経)、「オケから耽美的な響きを出し、抜群」(音楽之友)など各方面より絶賛された。昨年も1月のヴェルディ「王国の一日」(日本初演)、4月のブリテン「ねじの回転」(新国立劇場)、12月のヴェルディ「2人のオスカリ」(日本初演)、本年はR.シュトラウス「無口な女」の再演(新国立劇場)、ロッシーニ「ランスへの旅」(日本ロッシーニ協会)で各紙より絶賛された。東京オペラ・プロデュース指揮者。



指揮／徳永和彦 Tokunaga Kazuhiko

西南シャントゥール指揮者。
1961年、西南学院大学商学部卒業。
(株)福岡銀行・福岡コンピューターサービス(株)退職後、
現在、(財)福岡県中小企業振興センターに在職。
福岡高等学校合唱部、西南学院大学のグリークラブを通じて学生指揮を務める。
西南シャントゥール副指揮者より現在に至る。



ピアノ／瀬川啓子 Segawa Keiko

福岡教育大学音楽科卒業。ピアノを江頭恵美子、福田伸光の各氏に師事。
西南シャントゥール、福岡合唱協会、九州電力合唱団の専属ピアニスト。
福岡在住の声楽家との共演も多い。
現在、西南学院大学文学部児童教育学科教授。



指揮／古川みゆき Furukawa Miyuki

国立音楽大学声楽科卒業。北里由布子、福嶋敬晃、小野邦代、田中純子、西内玲の各氏に師事。また、オペラアンサンブルをフォルカー・レニッケ氏に師事。第一保育短期大学、九州大谷短期大学、西南学院大学の非常勤講師を経て、現在は後進の指導や合唱団の指揮、ヴォイストレーナーとして活躍している。一方西日本オペラ協会会員として、1984年にオペラ「ヘンゼルとグレーテル」のヘンゼル役でデビューし、以後「フィガロの結婚」のケルビーノ、「魔笛」の侍女II、「泥棒とオールドミス」のミス・ピンカートン、「カヴァレリア・ルスティカーナ」のローラ、「泣いた赤鬼」の赤鬼、などを歌う。また、柴田南雄作曲「忘れた少年」では初演以来、九州各地の公演で千々石ミゲルを演じている。その他、数多くのコンサートや「第九」を初めとして合唱のソロ等にも出演。現在、ももちパレス趣味教養講座講師。「コーコ・ヴェネーレ」指揮。



ピアノ／巣山千恵 Suyama Chie

福岡女学院高等学校音楽科、桐朋学園大学音楽学部卒業後、国際ロータリー財団奨学生としてドイツ、デットモルト国立音楽大学に入学。首席で卒業後、同大学にて講師アシスタントを務める。1987年福岡県高等学校音楽コンクール金賞受賞。第41回全日本学生音楽コンクール福岡大会高校の部第一位。1997年西日本出身新人紹介演奏会にて西日本新聞社賞受賞。1999年ルーマニアにてルーマニア国立交響楽団と協演。2000年第97回日本演奏連盟推薦新人演奏会賞受賞、九州交響楽団と協演。(故)瀬頭則子、末永博子、外山準、林秀光、田中美江、ネリーネ・バレットの各氏に師事。現在、福岡女学院高等学校音楽科非常勤講師、近畿大学九州短期大学非常勤講師を務める。

西南学院グリークラブ 第51回 定期演奏会

客演指揮／完戸真人 ピアノ／吉富淳子
Musical “My Fair Lady”
Six Choruses・「世界民謡集」

2003年1月12日(日) ももちパレス

開場／17:30 開演／18:00

チケット／¥600 (市内有名プレイヤガイドにて発売中)

予告

《創立49周年》 第26回西南シャントゥール定期演奏会

2003年11月30日(日)
開場／13:30 開演／14:00

福岡アクロスシンフォニーホール

女声合唱団 コール・エスパワール

1972年森川先生を中心に、コーラス愛好者が集まって会を結成、コール・エスパワールと命名する。

1982年より10年間森脇憲三先生の指導を受け、合唱団としての基礎を固める。又、ユニークなタイトルの演奏会「森脇憲三による女声合唱曲の歴史」を7回シリーズで開催して好評を博す。これまでに合唱コンクール出場や、さまざまなイベントにも賛助出演して意欲的に活動を続けている。

2001年11月には、30周年記念演奏会を福銀大ホールで開催。永い間歌い込んできたハーモニーを披露した。今年8月、念願だった「全日本おかあさんコーラス全国大会」への出場権を得て、東京文化会館大ホールで尾籠一夫先生指揮のもと、博多のまつり唄を熱唱して「ひまわり賞」(優秀賞)を受賞した。

団員は若くないが故に、向上心を燃やして練習に取り組んでいる。

《出 演 者》

● Soprano

池田 良子 井山 幸子
内田 親子 大野 雅美
梶原須賀子 古場 郁子
米野 安子 斎田美沙子
篠原 周子 吉倉知津枝
森田 玲子 渡辺 洋子

● Mezzo soprano

秋山 光子 石川 雅子
牛島三千子 牛原 辰子
城戸美紀子 古賀 博子
才田喜代子 白木 紀子
坂本志保美 鈴木 和子
高松 峰子 橋本 道子
山内 純子

● Alto

荻野 悅子 桐生二起子
鶴 真喜子 新納 俱子
橋口 治代 長谷川博子
三島 昭子 宮田 亮子
宮良 紀子 毛利 智子
八尋千鶴美



第25回全日本おかあさんコーラス全国大会 (2002.8.23 東京文化会館大ホール)

西南シャントゥール

西南シャントゥールは1954年(昭和29年)4月、西南学院グリークラブOBの54期の内海敬三氏(前・指揮者)らが中心となり結成された。以来、西南学院卒業者のみのメンバーで構成されており、西南OBの結束の堅さを継続している。シャントゥール[Chanteurs]という名称は、当時のアメリカ海軍の男声合唱団名の“The Sea Chanters”とフランスの男声合唱団名“Companion de la Chanson”を参考にし、結局フランス風に洒落て西南シャントゥール[Seinan Chanteurs]と命名された。

結成された当時は主に全日本合唱コンクールへの出場を目指し、3位入賞などの実績を残している。ここ十数年は専ら年に一度の「定期演奏会」を活動の中心に置き、同時に又各地の合唱団とのジョイントコンサートやゲスト出演活動を続けている。現在全国的にみても、毎年定演を持つ貴重な一般男声合唱団として高く評価されている。

(社)全日本合唱連盟・福岡県合唱連盟・福岡音楽団体連絡会会員

《1年間の演奏活動》

- 2001年12月1日 [アクロス福岡] ● (創立47周年) 第24回西南シャントゥール定期演奏会
- 12月23日 [アクロス福岡] ● (福岡女学院創立115周年記念) クリスマスコンサート“メサイア”(有志出演)
- 2002年3月31日 [福岡サンパレス] ● 日蓮宗立教開宗750年慶讃大法要
- 5月12日 [アクロス福岡] ● 團伊玖磨追悼コンサート
- 6月9日 [石橋文化センター] ● 第57回合唱祭
- 11月30日 [アクロス福岡] ● (創立48周年) 第25回西南シャントゥール定期演奏会

《出 演 者》

● 1st Tenor

秋根 武
乙藤 成美
宮地 基次
高木 正志
中尾 武史
飛松 智明
山元 一憲
倉地 進
大司 真
山口 聰
諸熊 敏明
日下部一徳

● 2nd Tenor

的野 恒一
福井 勲
馬頭 経明
野辺 和馬
波多江 忠
徳永 和彦
黒江 量二
石橋 一幸
徳永 武雄
石松 茂
今野 哲郎
窪田 敏博
波左間 実

● Baritone

林 照樹
下村 武俊
和田 正義
中辻 浩一
鈴木 効
栗野 寿泰
石川 和義
古賀 正義
松尾 淳郎
佐藤 棟也
里中 健
小西 真二
伊飼 康史

● Bass

下川 勝史
木道 昇
田中 義信
鶴 喜広
松枝 保匡
平田大三郎
阪井 俊文
蓮尾 勝右
毛利 正明
夏秋 毅昭
武藤 新
森 博彦
中垣 登

♪今年は二つのいい曲に出会った。ひとつは3月の日蓮宗大法要での宮城道雄の交声曲「日蓮」、そしてもうひとつは5月の團伊玖磨追悼コンサートでの合唱組曲「筑紫讃歌」である。いづれも混声合唱曲であるが、前者では箏や尺八などとの共演で改めて邦楽の音色に魅了され、後者では團氏の持つ筑紫への壮大な口マンを体感させられた。共にこの福岡の地で企画された曲である。「日蓮」は全国各地で数多く演奏されているが、「筑紫讃歌」は福岡以外で演奏されることはない。この名曲を絶えさせないためにも機会あるごとに歌い継いでいきたいものである。今年もご来場頂き感謝申し上げます。 (G.マネージャー/中尾武史)

賃貸♪管理♪売買♪仲介♪

♪すべては「お客様の喜び」のために♪

福岡県知事(1)第14016号

中垣不動産

〒810-0011 福岡市中央区高砂1-21-27-501
Tel 092-525-7218 fax 092-525-7228

地上16階のコミュニケーションスペース



結婚式・同窓会・記念祝賀会・食事会
講演会・展示会・記念式典・各種会議
研修会など

交通便利な！

福岡国際ホール

★大ホール全面改装★

福岡市中央区天神1丁目4-1西日本新聞会館16階
092(712)8855



黒缶パウチ 新登場!!

血合肉製品のベストセラー
「黒缶」がレトルトパウチに
なりました。



調理時間が短いから新鮮な
魚の風味が活きていています。



栄養価の高い「血合い肉」に
こだわりました。

- かにかま仕込み
- しらす仕込み
- サーモン仕込み
- かつお節仕込み



日本の猫は魚で育つ
マルハペットフード
マルハペットフード株式会社 〒105-0014 東京都港区芝2-3-3
Tel. 03-3457-7810 www.maruhapetfood.com



SINCE 1954 TO 2002